

研究
レポート

「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」 中間報告

泉水 英計

日本常民文化研究所の所員を中心に科研費基盤研究(B)として推進している共同研究「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」は2年目に入り、メンバーの現地調査が本格化している。今年度はブラジル未訪問のメンバーを優先して現地へ派遣し、それぞれが研究課題の分担に応じた調査にあたった。あわせて、前年度同様に研究会における情報交換と、補足的な情報収集のために国内出張をおこなった。

第1回研究会(4月14日)では、まず、前年度末に現地調査をおこなった建築班が、計測データをCADによって視角化したサンプルを作成し、これを題材に内田青蔵所員がレジストロ移民家屋の建築様式について解説した。つぎに、米田誠士氏が「レジストロ研究資料の紹介」をおこなった。米田氏は現地研究者の日本側協力者として、日本国内の諸機関に所蔵されたイグアペ植民地関

連史資料の探索にあたり、昨年秋には個人的に3箇月にわたり同地に滞在して植民地内の残存家屋を多く実見している。以後も本共同研究と研究上の連携を継続することになった。

ブラジルでの現地調査は秋口に4つの旅程で連続しておこなわれた。まず、森武磨客員研究員が加藤里織氏とともにサンパウロ州内陸部のアリアンサに赴いた(出張期間/10月26~11月8日)。当地は信濃海外協会によって建設された移住地で、レジストロの長野県人の移民とも関係が深い。この調査は、これまでサンパウロ市街と同州西南沿岸にとどまっ



写真1 第二アリアンサ最初の入植地点



写真2 コチア産業組合発祥の地



写真3 レジストロ共同墓地の無縁物故者供養

ていた本共同研究の地理的視野を拡大することになった。また、両氏は、日系人農業組合の活躍で知られるサンパウロ市近郊のコチアも訪問している。次に、角南聡一郎氏が、レジストロの共同墓地でその平面概略図の作成と墓標の調査をおこなった（10月28日～11月6日）。より正確な平面図を作成し、墓標を悉皆調査したうえで文字数字等の情報の平面図への落とし込みが望まれるが、このような作業には現地での十分な人員の確保が不可欠であり、次年度以降の作業課題となった。つづいて、小熊誠所員が森幸一氏とともにサンパウロ市内の沖縄人集住地区ビラカロンに赴き、沖縄系住民の系譜意識と祖先観の解明を念頭に系図データの収集や墓参の観察をおこなった（11月1～5日）。さいごに、黒瀬郁二氏と永井美穂氏は、ブルーノ・ヒサツグ氏の協力を得てサンパウロ州公文書館にてイグアペ植民地創設に関する文書資料の探索をすすめた（11月17～23日）。有益な情報を含む文書を収集することができたが、これらはポルトガル語の文書であり、より十全な読解のためにそれらの翻訳作業をどのようにすすめるかが次年度以降の課題である。これら4つの調査活動について、それぞれ出張者が第2回研究会（2月1日）に口頭報告し、その内容は『比較民俗研究』（31号）誌に研究報告として掲載されている。



写真4 サンパウロの沖縄移民の墓地（撮影／小熊誠氏）



写真5 サンパウロ州公文書館 2016年11月18日（撮影／黒瀬郁二氏）

日本国内での主な活動は次の3つがあった。まず、徳島県立鳥居龍蔵記念館で開催された特別企画展「遙かなるマチュピチュー鳥居龍蔵、南アメリカに行く」の見学である。鳥居は1937年の南米調査の際にレジストロおよび桂植民地近隣にて発掘を試みており、その際に撮影された写真ほか関連資料の所在について調査した（2月5日、22日）。次に、明治村（愛知）に移築されたレジストロ移民家屋の修復作業がほぼ終了したという連絡を受け、同施設を再訪し、修復に使用された建築材や工法について担当学芸員の説明を受けた（3月14日）。最後に、レジストロ市の姉妹都市である岐阜県中津川市を訪問し、市役所文化スポーツ部および市立図書館にて情報収集と資料探索をおこなった。

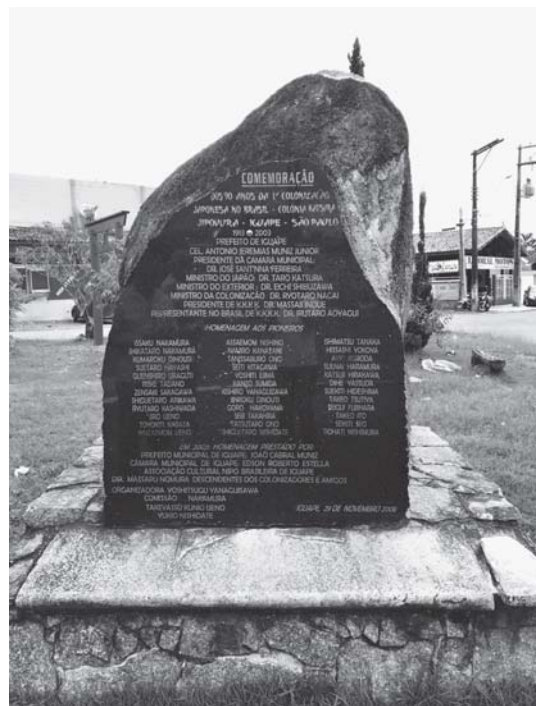


写真6 桂植民地90周年記念碑 2016年11月22日 カツラ広場（イグアペ市）にて（撮影／永井美穂氏）

今年度の現地調査により主要メンバーのすべてがそれぞれ本格的な調査活動に着手したことになる。そこで浮かびあがった具体的な検討課題をふまえ、次年度も現地調査に重点を置いた活動を継続する予定である。